

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2026 年度 一般 前期日程
3 教科選択型

国 語

2026年2月9日

解答 マーク記号	問 題	ペ ー ジ	解 答 番 号
B	国 語	1 ~ 13	【1】 ~ 【42】

注 意 事 項

1. 試験中は**監督者の指示**に従ってください。
2. 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄に**マーク**（ぬりつぶし）しなさい。
3. 解答欄以外の記入について
 - (1) **氏名・受験番号**を記入し、受験番号を**マーク**しなさい。
 - (2) 「解答マーク欄」の“**B**”を**マーク**しなさい。

解答マーク欄
ⓑ

4. 解答欄の記入について
問題冊子の間には解答番号が【 】で示されているので、解答用紙の解答番号を間違えないように**マーク**しなさい。

〔例示（解答方法）〕

解答番号【98】に(3)をマークする場合

解答 番号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
【98】	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

商 学 部
経 営 学 部
経 済 学 部
法 学 部
外 国 語 学 部
国 際 学 部
情 報 学 部

国語

(解答番号 【 1 】 ～ 【 42 】)

第1問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

一九五八年に『人間の条件』という英語タイトルで出版された著書の中で、ハンナ・アーレントは人間の行為を労働、仕事、活動という三つの区分に分けている。その上で、少なくとも一七世紀以降、これらの中でも「労働」が突出し、他の二つを侵食する形で、奇形的ともいうべき発展を遂げてきた、と論じている。人間という「労働する動物 (animal laborans)」は今や、その留まるところを知らない行動力でもって地上を席卷し、あらゆるものを生産と消費のサイクルに巻きこんでいる、というのだ。

アーレントによれば、**A** 労働の原点は、私秘性^{プライベート}と自然性にある。つまり耕作や畜産、調理といった行為は、ひたすら個体の生理的な欲求に奉仕し、これを満たすものだった。そして彼女に従えば、生き物が栄養をとり、消化し、眠ることで蓄えたエネルギーを発散し、それが再び**B** 1 コカツしはじめるまでの間の需要を満たすための手段にすぎない労働は、自然から与えられた枠組みを超える行為、つまりある程度長持ちするものを製作する「仕事」や、他の人間と意見を交わし、公的な世界を切り開く「活動」と比べると、明らかに価値の低い行為だった。その証拠に、アテネのような都市国家では、青年男子が民主的な意思決定のプロセスを通して行う政治とは異なり、家政^{ホウセイ}は、専ら女性や奴隷に委ねられていたのである。

否、労働はどう見ても、豚や蜂が行う生命維持活動とは異なっている。だいたい「もの」や言葉が介在しない労働があるだろうか、と人は反論するかもしれない。たいていの生物は、ただ獲物を摂取し、エネルギーに変えるだけだが、人間は自ら種をまき、動植物を計画的に生産する。しかもそのテクノロジーは日々変化し、向上している。常に同じことの繰り返しが特徴——アーレントは労働をこう定義するわけだが——の労働は、人間社会のごく一部にすぎないではないか、と。にもかかわらず、彼女は声高に主張する。そうではない、まさに近代社会を特徴付けるものこそ、人間の在りようを生産と消費の際限のないサイクルに閉じ込める、**C** ある種肥大化した自然性 (≡生命活動)

に他ならないのだ。そうした活動を担う国家が、どういう形態をとるかは問題ではない。ともかく、民主主義であろうが、共産主義であろうが、ファシズムであろうが、生産し、消費せよ、そしてそれ以外に興味関心を持つべからずという行動指針を共有している点で変わりはないのだ、と。それが、彼女が経験した二〇世紀である。

産業革命以降、労働による富の蓄積と増大は、社会の様相を一変させた。それは資本家と呼ばれる金持ち集団と、その何千倍もの被雇用者を生み出しただけではない。よく働くことは、人としてのあるべき姿の見本となり、働けず、生産性のない人間は、邪悪とはいわないものの、社会の正常さの基準から外れた存在として、排除や **D** 矯正の対象となった。国家自身が、他国と競い合う上で、いかに多く生産し、消費するか、またそうした旺盛な活力をそなえた国民をどの程度そろえることができるか、という観点を重視しはじめた。だが労働を通じた生活レベルの向上は、労働の必要のない余暇を、つまり、それこそ生物的な必要性などに左右されない、文化的な活動の余地をもたらしただけではないか、と人はいうかもしれない。けれどもアーレントは断言する。休みの間に人々が行っていることといえば、映画を見たり、ショッピングや旅行に出かけたりなどすること、**A**、いわば他人と似たり寄つたりの行為の繰り返しを通して、まさに時間を消費することではないか、と。 **E** 趣味の時間は、彼女にいわせれば、生き物としての行動の一次的な停止ではなく、その継続である。労働から解放されたユートピアを夢見たマルクスを批判しつつ、彼女はいう。「つまり、〈労働する動物〉の余暇時間は、消費以外には使用されず、時間があまればあまるほど、その食欲は貪欲となり、渴望的になるのである。しかも、この食欲がますます凝つたものになり、したがって、消費がもはや必要物に限定されず、むしろ主に生命の不要物に集中しているということは、この社会の性格を変えるものではなく、逆に、ついには世界の物が、すべて消費と浪費による **F** 絶滅の脅威に曝されるであろうという重大な危険をはらんでいることを意味する」。

アーレントは、労働とは **G** 逆説的な行為である、と考える。というのは、彼女には、近代人が **H** 躍起になって行う過剰な労働は何かを生み出し、また生み出されたものを徹底して消費するよう自分自身に促すことで、生物としての自己から他ならぬ生命力を（しかも当の生命力を通して）奪っているようにしか見えないからだ。消費とは快、つまり楽しむことである。楽しまなければ、また楽しむことができなければ生きている価値がない。否、むしろ命を削つてでも楽しまねばならない、これが「労働する動物」の鉄則である。ところで、アーレントの主張が不気味なほどのリアリティを感じさせるの

は、こうした¹生産と消費のサイクルを、それこそ地球上の全地域を巻き込むような途方もない規模で展開してみせたのが、二〇世紀に我々が経験した二度の世界大戦だからである。大戦は、兵士である成年男子だけでなく、女性や子ども、一般人、動植物、天然資源に至るまでの一切切を動員した総力戦であり、その勝敗を分けた（あるいは少なくとも、そう国家指導者に思わせた）のは、勝つためにいかに大規模に、また徹底的に生産できるか、そして生産されたもの——それが兵器であれ、兵士であれ——をいかに効率的に使用できるか、という一点だった。近代以前の戦争では、捕虜は相手方から身代金をせしめるための人質として、それなりの厚遇を保証されてはいた。けれども先の大戦で我々が目撃したのは、ホロコイストの記録が示すように、どれだけ酷使してもかまわない労働力として、一つの民族が丸ごと使い捨てられる姿だった。

アーレントはかくして、現代社会を、一種退化した生命、つまり自らを貪り食う不気味な生き物になぞらえたのである。

（入谷秀一『不真面目な戦争論—哲学者たちの生存戦略—』による 一部改変）

問 1 傍線部 A にあてはまるものを、次の中から一つ選びなさい。【1】

- (1) 仕事、活動を侵食する形で発展したもの
- (2) 生命維持の需要を満たすための手段
- (3) 都市国家で主に青年男子が担っていたもの
- (4) 自然から与えられた枠組みを超える行為
- (5) 日々変化し、向上している公的なもの

問 2 傍線部 B の漢字表記として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。【2】

- (1) 孤
- (2) 己
- (3) 古
- (4) 枯
- (5) 虎

問 3 傍線部 C に最も意味が近いものを、次の中から一つ選びなさい。【3】

- (1) ひたすら個体の生理的な欲求に奉仕し、これを満たしていく活動
- (2) 日々変化し、人間社会のごく一部にすぎなくなったテクノロジー
- (3) 各種の国家が共有する、生産と消費に関心を持たない行動指針
- (4) 「もの」や言葉の介在しない、獲物を摂取しエネルギーに変える活動
- (5) 日々向上するテクノロジーを用いて、動植物を生産し消費する活動

第2問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

マルチデバイス化したモバイルメディアは、「迷惑」なだけの存在ではない。モバイルメディアほど、移動の時間・空間で **A** 無聊をかこつ人びとの福音になったものはないだろう。また、それは他者との距離をとり、パーソナルスペースを確保し、その状況から「離脱」できるような「関与シールド」にもなりうる。だが、**B** そうした手段は昔から存在している。

たとえば、2012年5月24日の朝日新聞の「声」の「新聞読む習慣続けて良かった」では、「電車で新聞を読む人が減った」という以前の記事をうけて、埼玉県の50代主婦が以下のように振り返っている。「私が若いころ、満員の通勤電車で他人の顔に新聞がぶつかってでも読み続ける人がたくさんいたものだ」。その半年後、12月24日の同欄の別の投書には「先日、早朝に通勤電車に乗ったところ、私と同年代の男性が向かいの席に座った。ネクタイを締め、コートを羽織っている。電車が発車すると、男性はバッグから新聞を取り出し、四つ折りにして読み始めた。車内はガラガラだから新聞を広げても誰にも迷惑はかけない。それでも四つ折りで読む姿に好感を持った。それにしても電車内で新聞を読む人に出会ったのは久しぶりだと感じた。最近は携帯電話やスマホなどの最新機器を操作する人ばかりが目立つ。だから、その男性の姿はとても新鮮だった」とある。

C これらの投書からいくつかのことがわかる。まず、電車内では新聞・雑誌などを読む習慣が根付いていた、ということである。このような「**D** 通勤読書文化」は、戦前期にすでに広がっていた。永嶺重敏によれば、戦前の大都市では、短時間で読み終えることができる中間読物とよばれる随筆、座談会、手記等の雑文が流行し、また持ち運びに便利な円本や文庫本が発売されるようになる。駅売店での新聞・雑誌の売り上げは上昇し、その結果、「通勤読書文化」が現れた。たとえば、今和次郎は以下のように述べている。

電車のなかにすし詰めになされて、きちんと決まった時間に運ばれてゆき、夕方また運び返されてくるのです。電車のなかではしかたないから新聞を読む。隅から隅まで、頭を空っぽにするために食うように目を疲らして読むのです。

E 視覚以外の五感への刺激を規範的に抑制する傾向にある電車において、視覚情報へのニーズは高い。そのため、書籍・新聞・雑誌、あるいは広告を読む行為が通勤電車において広く普及することになった。

しかし、現在のスマートフォンと比較すると、新聞・雑誌ははるかに幅をとる。そのため、混雑時における新聞・雑誌の読書は「迷惑行為」になりうるものだった。すでに戦前の大阪ロータリー倶楽部のアンケートにも「新聞を広げて読む」が迷惑行為として挙げられていたが、これは戦後の営団地下鉄のマナーポスターでも定番であった。たとえば1977年の「比較新聞空間論 混雑時の新聞を考える」というポスターでは「車内では周りの迷惑にならないように読みましょう」とキャプションがつけられている。その後も、電車内の読書の仕方について触れたポスターが何度も掲示されている。紙や紙を持つ肘が触れるのが不快、ページをめくる音が耳障り、あるいは逆に、横からののぞき見も失礼な行為とされた。とくに広げるたびに幅をとり、バサバサと音のする新聞の読み方には工夫が必要とされ、新聞紙を小さくたたんで読むことが好ましいマナーとして考えられていたことがわかる。

「通勤読書文化」は現在においてもある程度は継続している。たとえば、混雑した車内での読書は、先の「迷惑ランキング」で2009年以降に立項されている。しかし、平均順位は約15位で推移しており、モバイルメディアに関する迷惑行為との差は

A。このように、2000年代以降のモバイルメディアの普及によって、紙媒体を中心とした出版文化は急激に衰退していった。なにより、マルチデバイス化したスマートフォンを通じて、通勤電車における行為の選択肢は、読書以外にも大きく広がることになる。しかも、携帯電話・スマートフォンは、小さく、周囲に広げる必要もない。新聞・雑誌を読むには腕・手のある程度動かす必要があるが、デジタルメディアは脇をしめたまま指先のみで操作できる。そのため、相対的にスペースをとらず、他者との摩擦も少ない。イヤホンをすれば、モバイルメディアを通じた自己の世界にさらに没入できるし、そうしたツールの存在を他者への「関与シールド」として利用することもできる。つまり、**F** モバイルメディアによってパーソナルスペースの確保が比較的容易になったといえるだろう。

電車の混雑率が解消し、乗客のあいだに徐々にスキマが現れる一方、車内のモバイルメディアによってより少ない動きで人びとができることが広がる。また、かつて路線図や時刻表を掲載した小さな冊子や手帳を参考にしながら路線・構内を移動し、迷えば駅

国語

員・乗務員その他の人びとに聞く必要があった。しかし、現在では、周囲の人びとに道を聞かなくとも、GPS付き地図や路線案内アプリなどを利用することで、ひとりで動ける範囲が広がる。つまり、車内空間のパーソナルスペースに余裕ができるだけでなく、透明な泡（バブル）に包まれたプライベートな境界は以前よりも強くなる。しかも、スマホの覗き見がマナー違反になり、覗き見防止フィルムが売り出されているように、モバイルメディアはプライバシー・個人情報のかたまりともいえる。そのため、情報空間の拡大とそこへの没入は、交通空間において尊重すべき私的領域をさらに **イ** するだろう。このようにプライベートなバブルがより **G** センサイで強固になれば、抑制的なコミュニケーションや消極的回避的なマナーがより望ましいものになる。逆にいえば、小さなモバイルメディアに集中して縮こまっていれば、マナーをそれほど意識せずに穏やかに車内を過ごせるともいえる。ただし、「ながら操作」や「歩きスマホ」によって自己の私的領域への没入が他者の私的領域の侵害になるなら、その **H** 軋轢とショックもまた大きくなるだろう。

注 日本民営鉄道協会による「駅と電車内の迷惑行為ランキング」というアンケート調査

（田中大介『電車で怒られた！「社会の縮図」としての鉄道マナー史』

光文社新書による 一部改変）

問1 傍線部Aに最も意味の近いものを次の中から一つ選びなさい。【12】

- (1) 耐え難い気まずさを感じている
- (2) 無口でいることを強えられる
- (3) 周囲に気を配ることができない
- (4) 手持ち無沙汰で退屈している
- (5) 他者の会話が気になっている

問2 傍線部Bにあてはまらないものを次の中から一つ選びなさい。【13】

- | | | |
|---------|--------|---------|
| (1) スマホ | (2) 新聞 | (3) バッグ |
| (4) 雑誌 | (5) 広告 | |

問3 傍線部Cにあてはまるものを次の中から一つ選びなさい。【14】

- (1) 5月24日の投書は新聞というメディアを否定的に捉えている。
- (2) 12月24日の投書は電車で新聞を読む男性を好意的に見ている。
- (3) 「新聞を四つ折りで読む姿に好感」という内容の投書が発端である。
- (4) 12月24日の投書は携帯機器で新聞を読むことを拒絶している。
- (5) 5月24日の投書は満員の通勤電車でも新聞を読むべきと主張する。

問4 傍線部Dにあてはまらないものを次の中から一つ選びなさい。【15】

- (1) 円本や文庫本は戦後になってから普及し始めた。
- (2) 戦前から電車内で新聞などを読む習慣があった。
- (3) モバイルメディアでも通勤読書文化は継続している。
- (4) 新聞を広げて読むことはマナー違反とされた。
- (5) 紙や紙を持つ肘が触れるのが不快とされた。

問5 傍線部Eはということか。最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。【16】

- (1) 聴覚や嗅覚などに影響を与える行為を、視覚と同じように規制すること
- (2) 聴覚や嗅覚などに影響のある行為を、望ましくないものとみなすこと
- (3) 聴覚や嗅覚などに影響のない行為を、白眼視することにより減らすこと
- (4) 聴覚や嗅覚などに影響を与えない行為を禁ずるような規則を決めること
- (5) 聴覚や嗅覚などに影響のある行為をその場の空気に反して抑え込むこと

問6 空欄アに入れるのに最も適当なものを次の中から一つ選びなさい。【17】

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| (1) 低迷している | (2) 伯仲している |
| (3) 歴然としている | (4) 恬然 <small>てんぜん</small> としている |
| (5) 再燃 <small>さいねん</small> している | |

第3問 後の各問に答えなさい。

問1 次の各傍線部に相当する漢字を、それぞれ(1)～(5)の中から一つずつ選びなさい。

ア 香港はかつて清からイギリスにカツジヨウされた。【23】

- (1) 讓 (2) 場 (3) 穰 (4) 乗 (5) 剩

イ それはどう考えてもセツソウのない行動だ。【24】

- (1) 総 (2) 燥 (3) 掃 (4) 繰 (5) 操

ウ 大臣は不祥事を起こしてコウテツされた。【25】

- (1) 鉄 (2) 撤 (3) 徹 (4) 迭 (5) 哲

エ その計画はハタンしてしまった。【26】

- (1) 担 (2) 綻 (3) 端 (4) 鍛 (5) 断

オ ある国ではハケン争いが起こっている。【27】

- (1) 破 (2) 派 (3) 覇 (4) 把 (5) 波

問2 次の各傍線部と同じ読みを含むものを、それぞれ(1)～(5)の中から一つずつ選びなさい。

ア 教^レ唆【28】

- (1) 俊敏 (2) 交雑 (3) 差配 (4) 喚起 (5) 説教

イ 恩^レ赦【29】

- (1) 初陣 (2) 賞罰 (3) 赤面 (4) 斜陽 (5) 席次

ウ 哀^レ悼【30】

- (1) 盗用 (2) 宅配 (3) 道場 (4) 分析 (5) 濁点

エ 頻^レ発【31】

- (1) 海浜 (2) 哺乳 (3) 凡例 (4) 軍需 (5) 便乗

オ 膳^レ写【32】

- (1) 御膳 (2) 別当 (3) 童謡 (4) 混乱 (5) 転籍

国語

問3 次の各空欄に入れる漢字として最も適当なものを、後の(1)～(0)の中から一つずつ選びなさい。

ア 無為 食 【33】

イ 内 外患 【34】

ウ 天去私 【35】

エ 岡目 目 【36】

オ 意気 天 【37】

- (1) 憂 (2) 完 (3) 衝 (4) 八 (5) 昇
(6) 徒 (7) 即 (8) 空 (9) 則 (0) 五

問4 次の各空欄に入れるのに最も適当なものを、それぞれ(1)～(5)の中から一つずつ選びなさい。

ア 虻 取らず 【38】

- (1) 蠍 (2) 蜂 (3) 蟻 (4) 蛇 (5) 蟬

イ 子にも衣装 【39】

- (1) 我 (2) 母 (3) 馬 (4) 犬 (5) 孫

ウ 武士は食わねど 楊枝 【40】

- (1) 上 (2) 竹 (3) 棲 (4) 安 (5) 高

エ 百まで踊り忘れず 【41】

- (1) 燕 (2) 鷗 (3) 家鴨 (4) 雀 (5) 鶯

オ 火中の を拾う 【42】

- (1) 栗 (2) 鉄 (3) 芋 (4) 屑 (5) 砂

(不審知用紙)

